

星屑

2015年 4月号

No. 481



熊本県民天文台

想えば遠くへ来たものだ・・・

熊本県民天文台 開設から33年経過 トコトン星空を楽しみ、余計な義務を背負い込まないのが 長年続く秘訣でしょうか？

今の時代、後継世代は、どこで、何をしている・・・

今年は、2月の半ばから3月の半ばまで、1つも団体向けのイベントがなかったので、今月号には「報告記事」がありません。でも、これから年度末のドタバタ(事業報告書の作成など)が始まります。ほんの一瞬の「空白」を楽しみながら、日頃考えていることを見つめてみました。

初代の天文台は、1982年3月に完成

出来上がったばかりの天文台で、ボランティアとして解説を務める予定の若者たちが望遠鏡の操作などを実習しました。大型の望遠鏡など、ほとんどのアマチュア天文愛好者が持っていなかった時代でしたからね。使ってみて初めて分かることばかりだったのです。

そこでの経験を元に、「どのように一般公開を行うか」と頭の中で想定していたそのやり方を検証し、交替で講師役をしながらトレーニングも実施。10数名の中心メンバーが曜日毎に運営を担当することにして、5月下旬から「月曜日以外の毎晴夜」、一般公開を開始しました。

13年間、毎晴夜公開

誰もお給料をもらっていないのに、定休日は月曜だけ、月や星が見えれば毎晩、一般公開を続けたことだけでも驚異的なことだったと思います。熊本市の中心部からは車で20分～30分程度の距離ですが、周囲の環境が良くて星がよく見えたこと、大きな望遠鏡を持つ施設を自由に使えたことなどが功を奏したのでしょうか。開設後の7～8年間は、運営に携わるボランティアの確保に困ったことはありませんでした。

ただ、城南工業団地の造成が決まり、天文台を塚原古墳公園内に移転し、建物と望遠鏡とを大きくしたあと、顕著な変化に気がつきました。

大型化すれば、会員は喜ぶはずだ

移転を計画したときにはそう考えていたのですが、1993年に天文台を現在地に移転し、望遠鏡を大型化したら結果は違っていました。望遠鏡が30cmクラスから40cmクラスになったことで、取扱のしやすさが大きく変わった(難しくなった)のです。コンピューターと接続すれば目的の星を導入できるようにもしたのですが、「コンピューター」に馴染みのない人も大勢いた時代でした。運営ボランティアを志す若者が「自由に使える」ところまで熟練するには、時間も情熱もより必要になったわけです。

おまけに、その頃、大きな社会的な変化も起こっていました。国内でのバイク(自動二輪車)販売台数が天文台開設時の10分の1近くにまで激減していたのです。熊大の学生さん達も以前の移動手段を持つ人が減ってしまいました。こうなると、夜間のバス便などがなく交通網

から外れた場所で、無償のボランティアを求めることが一気に難しくなりました。

アッシー君の活躍

そんな社会状況の中でも、天文台の毎晴夜の公開が続けられたのは、「アッシー君」の存在があったからでしょう。大学を卒業したあと、大学院に進学したり地元就職した青年たちのうち車を手に入れた人達や、アルバイトをして貯めたお金で中古車を購入した学生さんが、移動手段を持たない学生さん達を天文台まで送迎してくれたのです。当時、若い女性などを自家用車で希望の場所へと送り届けてくれる、しかも下心のない便利(?)な若者を「アッシー君」と呼ぶのが流行っていたようです。県民天文台でも、「天文台版アッシー君」らの影の支えがあって、一般公開がサポートされていたのですね。

共同出資にはしなかった

同好会だった時代に公開天文台の開設を計画したときから、「開設や運営の資金については、寄付を原則とし、共同出資の形は取らない」と決めていました。「共同出資」だと、あとで必ずお金のめ事に悩まされると考えたからでした。そう判断したことは正解だったと思います。「誰がいくらお金を出したか」が問題ではなく、いつでも「その時活動している人が主人公」でいられたからです。

このやり方だったからこそここまで続いてきたと思っているので、これからもずっと同じやり方で続けていきたいのですが、さてこの先はどうなるでしょうか。

世代をつなげられるか?

行政や企業などと変なしがらみを持たずに、自分たちの興味や関心を大切にしながらやってきたことが良かったのでしょね。星の観察を楽しんで下さる大勢の市民との対話を通じて、様々な取り組みを考案・工夫し続け、自分たちの判断で自由に運営してこられたので、ここまでの3分1世紀、市民と共に星空を楽しみ続けています。その期間の長さや広がり大きさには「すごいなあ〜!」と、我ながら驚くほどです。

一方、私たちは今の日本の多くの趣味の団体と同じ悩みも抱え込んでいます。それは、次の時代を担ってくれる若い世代を、仲間として獲得できないという問題です。

・・・

いろいろ考えて、工夫もしてみたつもりですが、最近になって「この問題を考えるのは止めようか?」と思い始めました。

自分自身が今、「星空や宇宙」をどのように楽しんでいるかが一番大切ですから。そして、その楽しさを、「星空や宇宙」に興味や関心を持っている他の人達に、どうしたら最大限に伝えることができるのか、それを工夫し続けることこそ重要だと思えるからです。

幸いなのは、県民天文台流の解説(だと私が考えているもの)が好評なこと。星空や宇宙を読み解く視点がユニークで、解説は楽しく分かり易くて、とても好評なのです、・・・しかし、それを生み出し続けるには資金が必要で時間もかかります。ところが、その活動はほとんど全てが(無償の)ボランティア。おしろ、ほかの「仕事」をして稼いだお金をつぎ込んで、ボランティアをしている状態ですよ。

県民天文台は「道楽天文台」だと言われるのも、そのとおりなのかも知れません。

(今の時代、これで「跡を継げ」・・・、という方が無理なのかも、ですね)

あら、まあ、珍しく愚痴をこぼしてしまいました・・・。

Nikon D810A が欲しい!

グズグズ愚痴ってきたのには、ちょっとしたわけがあります。つい最近、Nikonから新しい一眼デジカメ、D810Aが発表されたのです、それも、天体写真撮影専用で、です。

<http://www.nikon-image.com/products/slr/lineup/d810a/>



Webサイトの紹介

フルサイズ一眼デジカメ
インターバル撮影機能有

5月下旬に発売予定だそうです、すでにAmazonやカメラのキタムラなどのネットショップでは370,650円で予約を受付中です。うーむ、こんなを見ると欲しくてしょうがないですね。撮像素子が35mm版のカメラとおなじフルサイズ、こんなカメラで天体写真を撮ったらとても楽しそうです。

しかし・・・、どう考えても自分では買えそうにない。

ブツ・ブツ・ブツ・・・

去年は、年間35回ほど、団体向けの星の観察会や講座の講師を務めているのだけれど、そこで頂ける講師料はごく僅か。解説に使う写真の撮影やプリント、電子紙芝居の制作、それに持参するパソコンやアプリの更新など、頂ける金額以上の経費もかかっています。

ふう・・・、もう少しまともな講師謝金や派遣旅費をもらえないものだろうか・・・。

欲しくても買えない物が目の前に出現したからでしょうか、つい愚痴ってしまうこの頃です。

去年は

「愚痴っいてもしょうがない!」と一念発起、新製品は買えないのでNikonのD300（発売時にはAPSCサイズの撮像素子を持つNikonのデジカメでは最高機種だった）の中古機を購入。そうしたら、その数日後に系外銀河M82に超新星が出現して、見事な写真が撮れました。

即、PAOFITSの画像教材に活用、「やっぱり、前向きでなくっちゃ!」なのですね。

それなら、今年は

どうするか? 1つの案は、「昨年購入したD300を天体改造する」でしょうか?

「天体改造」とは、一般撮影用の設定になっている撮像素子のローパスフィルターを取り外して、水素原子が放つ赤い色のHa線を透過するタイプに交換する、カメラ改造法です。これなら、かかる費用は3万数千円で済みます。D810A購入費用の10分の1以下ですし、今年1年間楽しむための投資だと考えれば、私にも負担できない金額ではなさそうです。

気になるのは、一般撮影への影響ですね。赤い光への感度が上がるので、カラーバランスが変わってしまうこと。このところ、天文台のイベント撮影や趣味の野鳥の撮影などでもこのカメラ（D300）が大活躍していますからね。

費用と効果を、秤に掛ける?

いろいろ悩んでいるうちに、またまた考えが小さくなってしまったかも知れませんね。

もともと趣味や道楽なので、「費用対効果」なんて言葉とは無縁なはずですよ。金額の多寡には関わらず、自分が楽しそうだと思うことに自分の時間やお金など、持っている資源を注ぎ込んで、予想していた以上の楽しさを引き出してみようという世界。泥沼にはまり込むようにズルズルと引き込まれるだけでもよし、タップリと楽しむことができれば望外の喜びという世界。

ふーお、そのうちに「D810Aをプレゼントしましょう」という人が現れないとも限らない。そう思うことにして、今は自分でできる最大限の一步を、踏み出してみようと思います。

他に、欲しいものは？

年に1度か2度のヨット旅行に出かけるとき、VIXENのポラリエ（簡易赤道儀）があると嬉しいですね。星空が綺麗な港で、固定撮影だけでなく、ガイド撮影をやりたいです。

★★★ これからのスケジュール ★★★

5/10(日) 熊本県民天文台総会

☆☆☆ 10:00～ 12:00 火の君文化センターで開催 ☆☆☆

7/24(金) 武蔵ヶ丘コミュニティセンター講座 「夏の星空観察会」

☆☆☆ 20:00～ 21:30 武蔵ヶ丘中学校で開催 ☆☆☆

8/8(土) フィールドミュージアムへ飛びだそう 「夏の星座を観察しよう」

熊本県文化企画課主催

☆☆☆ 20:00～ 22:00(予定) 県民天文台で開催 ☆☆☆

8/21(金) 熊本県環境センター（水俣市）で 「夏の星空観察会」

☆☆☆ 20:00～ 21:30 (予定) ☆☆☆

9/26(土) フィールドミュージアムへ飛びだそう 「月を観察し 写真に写そう」

熊本県文化企画課主催

☆☆☆ 19:30～ 21:30 (予定) 県民天文台で開催 ☆☆☆

ちよつと一服

Poem & Illustration

三月になり、いよいよ春か、と思ったら寒の戻りの吹雪。そういえば、公立高校の受験日は雪っていうジンクスがあったような・・・とはいえ、星空は確実に春。日没時に南中している冬の星座ですが、徐々に主役を春の星座に明け渡しつつあります。

さて、ラブジョイ彗星 (C/2014 Q2) は、アンドロメダから離れ、カシオペアの頭付近に。暗くなったとはいえ、まだ6等級だそうで、存在はわかりますね。一時期金星と並んでいた火星はすっかり低くなりましたが、うお座からおひつじ座へと上ってきた金星と、かに座の木星はどちらも見ごろ。日没過ぎた19時には高く明るく輝いています。木星は衛星の相互食ラッシュ。楽しむためには事前チェックが必須です。後は、晴れることを祈りましょう。



女神たち

久々の逢瀬

日ごとに顔を変える女神は
真新しいノートのように 鋭い笑みを浮かべていた
まだまだ 狩りの季節は終わらないのだ
弓弦を鳴らして雪を蹴散らしたから
毛皮は いらぬ
握りしめた昨日を捨てて
決して結ばれることはない恋人が去るのを
横目で見て 闊歩する

移り気を装う女神は
霜に凍える赤い唇を踏みつけ
ぐん と背伸びして
しばらく 浮気相手と寄り添って見せたが
白や青や黄色やピンクや
色とりどりのやわらかな香りとともに
今では 黄金の毛皮をまとい
高みから 落ちていく彼を見下ろしている

大地の甦りを告げる乙女が 東の空に顔を出した
英雄も戦の神も黄泉の神も いらぬ 女神たちの季節



By Dio

2015年2月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 7日/12日=58.33%
一般来台者数 57名

総開台日数 7日
会員来台数 18名

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
1 日 (日)	晴れ	艶島 小林 M	0 人	寒くなってお客さんがありません。月はきれい だけど、気流は悪い!
6 日 (金)	曇り	小林 J 西嶋 高田	2 人	M42,リゲル、ベテルギウス、シリウス、木星、 ポルックス LED ライト×2+クリプトン電球ライト×1 買ってきました (高田)
7 日 (土)	曇り時 々雨の ち少し 晴れ	中島 艶島	4 5 人	豊野・菊池少年自然の家より来台 菊池 (18) 豊野 (20) +引率7人 夕方、雨が降ってシートは敷かずに運営 少し晴れ間が見えるので外で説明。説明中に M 42、シリウスを10cm屈折で観望。観測室 見学、星座の説明など。質問も出て盛会となる。
8 日 (日)	曇り	艶島	0 人	18:00頃より晴れて星空が見える。 それで開台。でも、19:20頃には完璧な曇 り空になってしまいました。19:30で終了
1 3 日 (金)	晴れ	小林 J 高田 西嶋	3 人	M42,M79,リゲル、ラブジョイ彗星、木星、hx 双眼鏡でスバル、ラブジョイ、M31,プレセペ とても熱心なリピーターさんでした。
1 4 日 (土)	快晴	中島 西嶋 白鳥 艶島 小林 M	6 人	ラブジョイ、木星、M31,M42 双眼鏡で M45,プレセペ、M41 とても熱心なおお客様でした。最後は木星撮影会 (スマホでコリメート) となりました トークアバウト 星屑発送 総会について

日付	天気	担当運営	来台数	記事
20日 (金)	晴れ	小林J 西嶋	1人	M42、リゲル、木星、双眼鏡でラブジョイ 時間がないということで、メジャーどころを駆け足観望。 よく晴れていたのにその後お客なし TVで「風立ちぬ」鑑賞

2月は記録的に開台日数が少ない月になりました。週末ごとに天気が悪く、しかも寒い日続くこともあって、客足が伸びなかったようです。3月に入ってもなかなか暖かくならず、いつになったら春がやってくるのだろうという感じです。ラブジョイ彗星の撮影も、2月13日を最後にご無沙汰してしまいました。

物欲全開で1月の初めにオークションで落札した、10cm屈折望遠鏡も、実際に星見に使ったこともありません。なんだかんだいっても、やっぱり寒いとおっくうになるものです。この望遠鏡は、昔懐かしいミザールという会社で作っているものです。15cmF8や12cmもラインナップされていました。結構まじめな作りで、鏡筒がえらく太いのが印象的です。重さはそれほどでもなく、とりあえず観望なら手持ちのピクセンのGP赤道儀でも搭載可能です。

でも、45年ほど前に初めて自分専用に使えようになった望遠鏡が、ミザールのP-100型という10cm反射赤道儀でした。その望遠鏡で当時接近していた火星のスケッチに熱中したことを覚えています。で、この望遠鏡です。10cmF10と、P-100型と全く同じスペックです。当時、10cm屈折望遠鏡なんて、ユニットロンあたりが出していた、すごく高いものぐらいしかなかありませんでした。ところが、今ではこの望遠鏡が2万円もしないで買えてしまうのです。時代が変わったんだなああと、つくづく思いました。



ミザール 10cm屈折 (F10) Yahooオークション

キラッキラの金星が、西空高くなってきましたね。日も長くなってきて、毎日見る金峰山が、薄明るく見えてきてます。春はもうすぐかなあと。春と言えば桜の開花が楽しみなこの頃ですが、4月4日にはまた皆既月食が見られます。誰か桜と月食撮影しませんか？私もネタは色々考えているのですが、バタバタしてて…。1日が36時間欲しい…。

☆4月の天文現象&行事☆

- 2日(木) 木星の衛星カリストがガニメデを隠す(18:37 部分食、継続時間24.1分)
- 3日(金) 木星の衛星イオの影にエウロパが入る(19:07 金環食、継続時間5.1分)
- 4日(土) 皆既月食(開始 19:15.4 → 終了 22:45.1) 満月(21:06)
- 5日(日) 清明(せいめい … 春の日射し強く、全てのものが清く澆刺としてくる時期)
- 7日(火) 天王星が合(05:48 5.9等 視直径03.3")
- 9日(木) 木星が留(05:00)
- 10日(金) 水星が外合(04:59 -2.2等、視直径05.0")
木星の衛星イオの影にエウロパが入る(21:21 金環食、継続時間5.2分)
- 11日(土) トークアバウト(20:00~ 変更の場合あり)
- 12日(日) 夕暮れの西空で、金星とプレアデス星団が接近
下弦(12:44)
- 14日(火) 木星の衛星ガニメデがエウロパを隠す(21:17 部分食、継続時間0.8分)
- 17日(金) 木星の衛星イオの影にエウロパが入る(23:36 金環食、継続時間5.3分)
- 18日(土) 木星の衛星カリストがエウロパを隠す(00:30 部分食、継続時間5.7分)
- 19日(日) 新月(03:57)
- 20日(月) 穀雨(こくう … 春の雨が穀物を潤す時期)
- 22日(水) 23日にかけて、4月こと座流星群が見られる
- 26日(日) 上弦(08:55)
- 27日(月) うしかい座 α 流星群が極大のころ

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星曆」 2015年4月号 通巻481号
 発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226
 熊本県熊本市南區城南町塚原2016番地 熊本県民天文台
 TEL 0964-28-6060
 振替口座 01700-5-105697
 NPO熊本県民天文台事務局
 天文台ホームページ <http://www.kcao.jp/> メールアドレス astro@kcao.jp
 メーリングリストの加入申し込み受付中 kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで